

これまでに開催された検討会議・部会の報告

町の景観に関する検討に伴い、5月には検討会議、6月には市街地景観検討部会、景観地区検討部会をそれぞれ1回ずつ開催しました。(詳細は町ホームページに順次公開します。)

第6回 景観計画・緑の基本計画検討会議

日時：2021年5月26日(水)午後2時00分～午後4時00分
場所：倶知安町役場2階 会議室



◆議題

- 「昨年までの検討経過及び景観計画の構成について」
- 「町内の景観まちづくりの活動について」
- 「緑の基本計画について」

意見交換の一例

- ・駅前通りに空き地の増加が目立ち、冬場に除雪されず歩行困難な歩道が増えている。豪雪に対応した景観形成が重要になってくる。
- ・景観届出基準については、町内の建物規模の現状と照らし合わせながら定めていく必要がある。
- ・水辺の景観について、川や湖などを、どんなポリシーをもって守っていくかをもう少し掘り下げるべきでは。
- ・色々な団体の活動が既に、景観まちづくりに繋がっている。このような活動をどんどん集約して景観計画に載せていきたい。
- ・倶知安町の街路には、地域にマッチしていない樹種が植栽されていることが多いように見えるため、緑の基本計画においては、倶知安町の町木であるイタヤカエデなど、木の種類を選定すべきである。

第5回 市街地景観検討部会

日時：2021年6月4日(金)午後2時00分～午後4時30分
場所：倶知安町 中小企業センターホール



◆議題

- 「昨年までの検討経過について」
- 「景観観察(駅前通り)」
- 「景観観察を踏まえた駅周辺の景観形成について」

意見交換の一例

- ・空き地や空き店舗をどのようにポジティブなものにしていくかが課題である。雑草は放置しないなど、最低限のルールを決めておくが良い。
- ・姉妹都市のサンモリッツへ視察に行った時に、建物の壁に植物をハンギングしていたのが印象的で、自分でもその景観を広めていきたいと思い取り組んでいる。
- ・空き地を有料駐車場にした方が収益性は高いかもしれないが、賑わい創出の為にキッチンカーなどが良いと思っている。何店舗かてまとまっていると、集客力が上がりそう。一店舗だけでは弱いと思う。
- ・外壁の色は大切だ。意匠や形が違って、色がまとまると街並みが美しく見える。
- ・既存店舗の改修時に入り口を下げるだけで雰囲気が変わると思われる。

第6回 景観地区検討部会

日時：2021年6月9日(水)午後2時00分～午後4時00分
場所：倶知安町役場3階 第2委員会室



◆議題

- 「昨年までの検討経過について」
- 「リゾート地区における地域区分と建築物ルールの見直しについて」

意見交換の一例

- ・ヒラフの良い所は、個人経営のロッジやペンションがあること。それら小規模な宿泊施設の経営や宿泊ができる地区はあって欲しい。
- ・森の中に小さな建物がぼつぼつ埋もれるのと、大きなホテル棟の周囲に広い森が有ると、どちらが良い景観なのだろうか。
- ・大型開発に対して情報をキャッチし易いよう、準都市計画区域の拡大には賛成。
- ・リゾート地区内の建物は、建ぺい率・容積率だけでなく、敷地内の森林率も設けて誘導していかないと。
- ・リゾート地区における自然保全の大きな目的は、景観への配慮や、それを資源とする観光業の持続的発展など。

～景観室から～「知ることで広がる世界」 (倶知安町景観係 主事 横山有紀)

「エゾエンゴサクを見に行かない？」私は5月中旬、旭ヶ丘に散歩へ行きました。そこには、エゾエンゴサクが織り成す水色の絨毯、昔片栗粉の原料であったカタクリなどの花が出迎えてくれました。カタクリの花は、開花するまでに7～9年と長い期間を要するそうです。私は長らく倶知安に住んでいますが、今この素敵な景色を見て、知ることができたのは、4月に景観の担当となり、周りに花の見ごろを知っている人がいたからこそだと気づかされました。景観は変化すれども、過去からのつながりがあり、気づいたら私たちが景観の輪の中にいるのだなと思いました。

くっちゃん景観だより

第5号 2021年7月発行

お問い合わせ/発行者 倶知安町まちづくり新幹線課景観室
TEL 0136-56-8012 FAX 0136-23-2044 E-mail:keikan@town.kutchan.lg.jp

倶知安の“むかし”と“いま”を比べて「景観」について考える

4枚の写真をご覧ください。“むかし”と“いま”で「変わらないもの」「変わっているもの」を探してみましょう。

総合体育館の上空から市街地北東方面の写真

昭和30年代後半



駅前通りを中心に建物が密集していた

現在



駅前通りの建物が少なくなっている

- ▶ 変わっているもの >>> 建物の形状、まち並みの範囲
- ▶ 変わらないもの >>> 遠くの森林や山並み

どんぐり公園の様子

昭和34年頃



当時は「どんぐり広場」と呼ばれていた

現在



今も子供たちがたくさん遊んでいる

- ▶ 変わっているもの >>> 遊具や樹木
- ▶ 変わらないもの >>> 子どもたちが楽しむ様子

風景や景色は、上の写真のとおり、私たちの暮らしや営みによって変わるものと、変わらないものがあります

くっちゃんの景観は人の手を加えながら変化しながらも、人の手を加えない自然やその土地に合わせた生活様式を風景に取り込むことで、私たちの心に潤いを与えてくれるものと思います。

自然に対する謙虚さと、変化することの寛容さとのバランスによって、くっちゃんの良い景観が長い年月をかけて作られます。

ぜひ 展望テラスへ!

倶知安町役場の3階に展望テラスができ、晴れた日には羊蹄山やニセコ連峰が眺められるので、ぜひ遊びに来てください。

現在は、町内の自然や風景の写真を集めたミニ写真展も開催中です!

シンポジウムでは、「地域の魅力を、知ること、つくること、つなげること」をテーマに、景観計画策定の目的や流れについての報告、講師を招いての講演や倶知安町にゆかりのあるパネリストによるパネルディスカッションなどが行われました。また、シンポジウムにはオンラインからの参加を含め、約50名に参加していただきました。

町長のあいさつ



- ・皆様がこの地域に誇りと愛着を持ち続けられるまちづくりが大切である。
- ・改めて倶知安の素晴らしさを感じ、どのように次の世代につないでいくか皆さまと一緒に考える一時を。また、景観計画へ反映できる場になることを期待。

講演「くっちゃんの身近な自然を楽しもう！」

講師：古市 竜太氏（マウンテンガイド・コヨーテ代表・ニセコ羊蹄山岳会代表）



▶ 景観とは何だろうか

- ・時代の流れの中で、スーパーやコンビニなど、日本中どこに行っても同じような景観になってしまった。
- ・景観は、皆さんがイメージする自然の「自然景観」と土地や風土に根付いた文化や産業の「人文景観」の大きく2つに分けられる。

▶ 倶知安の景観はどんなものがあるのだろうか

- ・ロクさんこと、高田緑郎さんが叩いていた"羊蹄太鼓"。羊蹄山の四季などをイメージされたもので、「人文景観」に含まれる。
- ・現在「自然景観」に見えるイワオヌプリの裏側も、昔は1つの村であった。今でもレンガが落ちていて、興味深い「人文景観」でもある。

▶ 開拓前の倶知安

- ・開拓が入る前の倶知安原野は、農業に適した森が広がるという調査結果が報告されており、それが自然景観の元々の姿。

▶ 古市さんが皆さんに伝えたいこと

- ・自然には、人の手が入るだけで元に戻すのが難しい「弱い自然」がある。湿地はその代表で、埋められやすいが、温暖化防止の効果がある。
- ・資源は、利用しすぎないで残すことによって一緒に生きながらえていけるような考え方を「ワイズユース」と言う。山菜も3割を採ってその他を残しておけば、毎年みんなで山菜を食べられる。「残す」ことを考えることで、自分の好きな景観が未来につながる。

倶知安町からの報告「景観計画策定の目的、策定までの流れについて」

倶知安町まちづくり新幹線課景観室長 桜井昌之



▶ 景観は地域の魅力であり、皆の大切な資源

- ・景観計画の目的は、住む人・来る人・お互いにとって、より魅力的な町にするために倶知安の景観の素晴らしさを知り、それを守るまちをつくり、未来へつなげることである。
- ・景観計画では、町全体の目指すべき理念や方針を定め、それを実現するため建物などの景観ルールや景観づくりにつながる取り組みを位置付けていく。
- ・美しい自然そのものというよりも、自然と人が交わるところに景観が生まれるのではないかと考えている。計画づくりではそこを大切にしたい。

パネルディスカッション

「美しいまちと呼ばれるために一私たちが伝え・つないでゆくことは」

コーディネーター：矢吹 俊男氏（倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議 座長）

パネリスト：古市 竜太氏、大友 裕子氏（フラワーマスター）、柏谷 匡胤氏（しりべし・くつろ木の会代表）

▶ 活動を行っているなかでの課題に関して考えること



大友氏

- ・花が好きだったことから、フラワーマスターの資格を7年前に取得。周りは花好きの方、花つながりで親密な方がたくさんいる。
- ・花植えをしても、車が花を潰していくことが残念。花を見て嫌な気持ちになる人はいないと思うので、活動をずっと続けていきたいと思っている。



柏谷氏

- ・本業の建設業において、林業や加工業の方と接点がなく、業界内で連携があまり取れていなかったため、しりべし・くつろ木の会を立ち上げた。
- ・町内では戦後に植林した木が伐採時期を迎えている。伐採した木が町外に出てしまい、町内で使用する建築材は輸入が多いという課題が浮上してきている。



古市氏

- ・素晴らしい景観があっても、散策路や道がないと共有も楽しむこともできないが、散策路は自然の中の傷口のようなものであり、しっかりと整備しないと「傷口」が広がってしまう。また整備した後の維持を継続的に行うことがとても重要であるが、財源の確保と愛情のある限られた人たちの活動だけでは難しい。

▶ 景観を守る・残す・伝える、それぞれの言葉への思いや考え



柏谷氏

- ・目に映る「光景」、日常の暮らしに根付いた「風景」、そこにある心を動かす「情景」。全てが合わさって、景観になるのだと思っている。
- ・自分自身も「景観の一部である」という意識をもつこと、景色に似合う人間になりたいと思うことで、より良い景観につながっていくのではないかと。



古市氏

- ・消費の時代は終わったので、よく観察し、知ったうえで、今あるものをつないでいくことが大事だと思う。



大友氏

- ・景観が良くなると豊かな心が育つと思う。汚い町よりもきれいな花が咲き、みんなの心が豊かになって、笑顔になるのが理想の世の中だと思っている。

矢吹氏

- ・以前、小学生が一輪の花の写真を撮り「草刈りをしていたおじさんが、その花だけ残っていた。おじさんは優しいと思った。私は幸せでした。」と話していた。こうした、地域で見つける幸せが景観の一部となってつながっていくということ。景観は意図的に守る、残す、規制も必要。
- ・これからも皆さんのご意見を聞きながら、計画づくりを進めていく。

景観シンポジウムをYouTubeで配信中！！



景観シンポジウム当日に、YouTubeで会場の様子を配信しました。動画は現在も引き続き公開中ですので、是非下記URLかQRコードからアクセスしてみてください。くっちゃん景観シンポジウムのYouTubeチャンネルに飛びます。

<https://www.youtube.com/channel/UCm499c5TYObRsnbtZjNCFjQ/videos>

詳しくは倶知安町のホームページをご覧ください！

公開中